



たしはな

一般社団法人
日本ボーイスカウト
静岡県連盟

〒420-0068
静岡市葵区田町1丁目70-1
(静岡県青少年会館内)

第25回 世界スカウト ジャンボリー!



CONTENTS

第25回 世界スカウトジャンボリー 2	島田地区大会 11
大韓民国全羅北道セマングム	カブつうしん 12
第25回 世界スカウトジャンボリーに参加して 4	ボーイ通信 12
浜松市長訪問・ローバースカウト集合訓練 6	指導者だより 13
浜松第11団発団60周年 7	受章者紹介 14
理事 稲野吉弘が各界に幅広く聞く	「友情章」おめでとう26名の仲間 14
活躍するボーイスカウト経験者探訪 8	マスコミコーナー 15
遠州鉄道(株)代表取締役会長 斉藤薫氏	お知らせコーナー 16
ラトビア×富士地区交流プロジェクト 10	

令和5年10月
第173号

第25回 世界スカウト ジャンボリー!

8月1日(日)~12日(土)
大韓民国全羅北道セマングム



会場へ



開会式



韓服を
着ました!



セマングムの朝



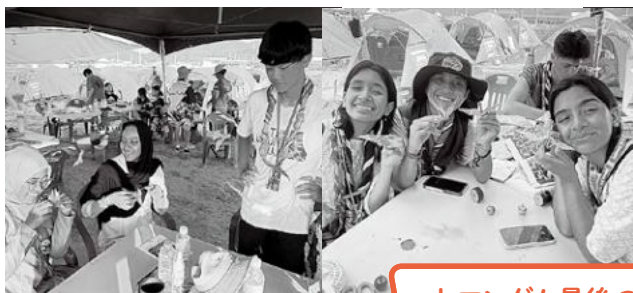
文化交流日



積極的に国際交流を
行います!



オランダ隊と交換会
ソーラン節を披露!



セマングム最後の
ボンファイア!



地元
ボランティアからの
差し入れ



洞窟見学

台風接近のため会場撤退



お世話に
なりました!

救仁寺



韓屋村



閉会式



空港内施設で
宿泊

K-POPコンサート



帰国

第25回 世界スカウト ジャンボリー! に参加して

25WSJに参加して…

日本派遣団15隊 隊長 **山崎 敏弘**

昨年の10月からの訓練期間を経て、県内のスカウト36名と指導者4名が、8/1羽田から韓国へ旅立った。会場でサイトに着いたのは同日の22時前だった。それから設営して就寝。明けて8/2いよいよプログラム開始。場内のオンサイトプログラムへとスカウトはサイトを飛び出していく。夜は開会式があり、想像以上の人の数、花火、ドローンショー、興奮気味で帰営してきた。

昼間は暑さのため、熱中症が続出。木陰もなく、日中は日陰でも40度を超えている。トイレやシャワーに関する設備の不備も指摘されだしてきた。これに関しては私の隊では当てはまらない。徐々に快適になっていたのである。

報道では悪評高きジャンボリーとなっていたが、台風6号の直撃を避けるために避難(大会的には閉会式会場への移動)した救仁寺での歓待ぶりは感謝の言葉しかない。これはスカウト一人ひとりにも十分伝わっているに違いない。

最後の日は、思わずめぐってきたソウル市内観光。うれしい限りである。夜は参加スカウトがほぼ全員集まり、閉会式。その後のk-popコンサートはスカウトにはたまらないショーとなったことであろう。

色々な面で、不幸な大会になったが、スカウトには世界中に友達が出来、何事にも替えがたい体験を土産にして帰国したことであろう。

25回世界スカウトジャンボリー

日本派遣団15隊 **酒井 七華**

私は、このジャンボリーでたくさんの災難に見まわられました。最初の1週間は、お腹を痛めてしまい楽しむことができませんでした。やっとなおってきたと思っていたら今度は新型コロナウイルスにかかってしまい、活動に参加できなくなってしまいました。

その他にも、ジャンボリー会場から避難になってしまったり、自分のスマホをなくしてしまったりとたくさんのことがおきました。ですがそれ以上に、人との交流が楽しくて、それらの嫌な出来事もあまり気に

なりませんでした。

私がジャンボリーの中で一番楽しかったのは、閉会式です。閉会式では、知っているK-POPアイドルがでてきてとてもうれしかったです。また、ジャンボリー中に知りあった友達と再会できたのもうれしかったです。

隔離されたり、ジャンボリー会場から立ちさったり、色々となりましたが、本当に全てが楽しかったです。班長として、あまり仕事ができなかったけれど、班員やリーダー達が支えてくれたので、やりきることができました。とてもきょうな経験をさせてくれた、家族やリーダーたちに感謝したいです。

班長として

日本派遣団15隊 **加藤 健**

今回の世界スカウトジャンボリーは自分にたくさんのものを与えてくれました。

自分は今回のジャンボリーで4つの班の中の1つの班の班長をすることになりました。自分はあまり人をまとめるのが得意ではなかったのですが、今回の9人の班の班長をやる事は不安でいっぱいでした。そして何日も訓練を重ねていくうちに班長の大変さを身をもって知ることができました。ですが、班長と言うのは班のリーダーなのでいつも正しいことをしなくてはなりません。そこで班員たちにもたくさん指示を出すことがあります。班員も人間なので必ず指示どうりに行くとはかぎらず、うまくいかないこともたくさんあります。ですが自分の持っていることがうまくいくととても良い気分になれます。そういうときに班長をやっている良かったなと思えます。

今回のジャンボリーに行くときに自分の目標として「人として大きくなっていく」という目標を立てていました。自分の中では14日間エゾウルフ班の班長をやり遂げたことで人として大きくなれたと思います。

ジャンボリーに参加して

日本派遣団15隊 **池田琥太郎**

僕は班長という責任ある役割を与えられ、重圧を感じていました。しかし、班員が様々な意見を出してくれたり、仲間同士で励ましあったりして活動ができた為、役割を果たすことができました。皆のサポートのおかげです。

今まで海外の人との交流をした事がなかったので、一番の不安は言葉の壁でしたが、実際その場になると、その不安は自然と消え、自ら声をかけることが楽しくなったと共に、自分への自信につながる事となりました。





想定外と感謝の心

日本派遣団16隊 副長 **徳澄 大輔**

とにかく想定外のことが多く、いつも走り回っていたという印象が多い2週間でした。毎日平均2万歩は歩き、睡眠は3～4時間程度、灼熱の気候に、初日は食料配給の遅れ、飲料ペットボトルの不足。恵まれた環境とは言い難い状況でした。英国隊、米国隊、シンガポール隊は衛生面、健康面で基準を満たしていないと早期撤退。その直後から大統領令が届いたのか、物資の供給が潤沢になり始め安堵しました。

それでもスカウト達は、海外のスカウト達と野営生活の中でチーフやワッペン、連絡先を交換、場外から通いでやってきたシンガポール隊や、同サブキャンプ内のスイス隊との夕食会、そしてイタリア隊とスイス隊との120人での大ボンファイアでは、まさに世界ジャンボリーならではの楽しい時間を過ごせました。また夜間は涼しい海風に吹かれ、熱帯夜ではなかったのが幸いでした。そんな中、台風接近による会場撤退はまさかのニュースでした。

撤退先の救仁寺(クインサ)では、日本隊1,500名超が文字通りの雑魚寝、そして上り下りの多い傾斜面での生活、不足するトイレやシャワーと不便な生活に、会場を懐かしむ声も出ましたが、お寺や近隣ボランティア、そして地元行政のお陰で増設シャワーやトイレ、3,000本もの茹でウモロコシ、リンゴ、桃など丁寧なおもてなしを受けた滞在でした。院長による講話、地元ボランティアによるパフォーマンス、そして地元の名所観光と、ジャンボリー会場とはまた違う種類の国際交流が出来たことも良い思い出です。

ソウル市内スタジアムでの、閉会式後は仁川空港ロビーでの野宿の予定でしたが、空港当局の配慮によって隣接する体育館を2時間で受け入れ体制を整えて頂き、夜通し入口に警察官を配備するなど、日本隊は安心して夜を過ごせました。

想定外なことが多かったものの、それ以上に支援して下さる人々の優しさや温かさに触れることが出来、スカウトも異口同音に「楽しかった」と笑顔で締めくくることが出来、想定をはるかに超えて濃密な25WSJでした。

世界ジャンボリーを振り返って

日本派遣団16隊 **後藤 悠斗**

開会式の熱狂を見て、私はスカウト仲間が世界中にいるのだということを再度実感すると共に、スカウト運動の可能性を感じました。スカウト運動は今

後グローバル化が進む中、同じスカウト仲間として互いに理解を深め合ったり、豊富な活動を通して国際問題の解決への前進や国際人の育成に貢献することが出来ると思います。世界中に仲間がいるこの恵まれた環境を生かし、なにか出来ることをやってみようと心を動かされました。

I drew my dream.

日本派遣団16隊 **徳澄 小春**

今回の25WSJ、うれしく、辛く、そして充実した2週間を過ごすことが出来ました。当初、「世界中からスカウトが集まる」という漠然としたことしかわからず具体的なイメージを持つことができないまま日本を出国しました。しかしそんな私をセマングムで待っていたのは明るく陽気なたくさんの外国人スカウトの仲間でした。ぎこちない英語でも外国人スカウトは耳を傾けてくれたことで会話することができていたと思います。ネットニュースやテレビ番組で、本大会は批判されていましたが参加した私にとっては自分自身を成長させてくれる良い機会になりました。

配給場所では自分の意思をはっきりと主張しなければ何も得られない、清潔なトイレを使うことが出来る有り難さなど、ジャンボリー生活の日数を重ねるうちにたくさんの学びがありました。このような学びの場を私たちスカウトに与えて下さった指導者や、会場で臨機応変に対応に当たっていたISTの皆さん、たくさんの方の奉仕精神によってジャンボリーが創られていることを決して忘れません。この経験を今後のスカウト活動や将来に活かし、更なる高みを目指します。

世界ジャンボリーに参加して

日本派遣団16隊 **中山 ひかり**

私はこの世界ジャンボリーで新しい友達を作ることができてうれしかったです。私はコミュニケーションをとることがあまり得意ではなく、友達を作ることとはできないだろうと思っていましたが、外国隊の人との交流で仲良くなったインドネシア隊の人、スイス隊の人とInstagramを交換して今でも英語でやり取りをしています。こんな自分でも外国人で仲良い人が出来たのに驚きました。

また、ジャンボリー期間中に会った名前も知らない日本隊の人とも話をして、15隊の人ともInstagramを交換しました。スカウトは県も国も年齢も関係なくみんな仲間であるということを実感できたジャンボリーでした。



浜松のスカウト、浜松中野市長に 25WSJ参加報告を行いました

8月21日、25WSJ派遣隊16隊浜松・浜松東地区のスカウト及び指導者が浜松市役所を訪問し、中野祐介市長に世界スカウトジャンボリーの模様を報告しました。

始めに浜松第12団BS隊の原野志緒さん、浜松第14団VS隊の後藤悠斗さん、浜松第30団BS隊の山本光司朗さんが市長に世界スカウトジャンボリーの感想・思い出を語りました。中野市長からは『世界ジャンボリーの経験を今後の活動に活かして頑張ってください』と温かい言葉を頂きました。



ローバースカウト集合訓練に参加して



富士宮第25団ローバー隊 井出 豊己

私は今まで災害に遭っても非常食等を用意して避難所に行けば行政がなんとかしてくれるであろうと甘く考えていました。

今回RS集合訓練のプログラムである避難所運営の模擬体験を経験した際に感じた精神的体力的疲労感を通して、所属している団や地域の方々にもっと真剣に防災対策に取り組んでもらえるよう周知していく必要があると強く感じました。

今後は周りの防災減災に対する意識を少しずつ変えて行けるよう、行動に移していきたいです。

掛川第2団ローバー隊 大角空ノ輔

実際に避難所運営を行うことで、具体的に何をすればいいのかを考え行動することで、身をもって体験できたこと、さらに全国のローバースカウトと関わることができ、非常に貴重な機会になったと感じました。

浜松第30団ローバー隊 奥村 侑香

いざ避難所運営訓練をするとなったときに率先して動くことができなかった自分に悔しさが残った。関連知識や技能の不足から、自信を持って行動ができなかった。この経験を無駄にせず事後課題の取り組みに活かしたい。

三島第14団ベンチャー隊 小林 理来

今回の集合訓練では情報管理と適切な判断能力が必要だと学びました。ボーイスカウトでは上記2点を活動の中で養っていくことが社会的に求められることだと思います。日々の活動や生活で意識していきたいと思っています。

ボーイスカウト浜松第11団 発団60周年



浜松第11団団委員長 中野 亮太

本年、2023年に当団、ボーイスカウト浜松第11団は発団60周年の節目の年を迎えることとなりました。同じく節目の80周年を迎える遠州鉄道(株)の企業団として今日まで歩んでまいりました。

発団当時は、バス事業や観光レジャー業(遊園地・ホテル業)が拡大していた時期でありました。土日忙しく働いている社員の子供たちに企業として様々な経験をさせてあげたいという熱い思いから、当団のボーイスカウト活動はスタートしています。

それから60年、遠州鉄道(株)も地域のサービス業を担うグループ企業に成長し、そこに入社した社員の中から、志のある指導者たちの奉仕により、グループ社員の子供たちをスカウトとして育てる活動を続けてまいりました。



ボーイスカウト活動には、子供たちを育成するための制度がいくつかありますが、その中でも「班制度」は大切な制度と感じています。学年の枠を超えて「班」として活動することや、先輩が後輩に技能を教えるという体験は貴重であると思います。「自分ができること」と「人に教えること」は違いますし、相手の気持ちを考えるきっかけにもなると思います。社会人になってからも組織の中で活躍することやリーダーシップを発揮することへの基礎を学べる場になると思います。

スカウトたちには、この活動を通じて、地域や社会に貢献できる人に成長していただきたいと思います。そして、スカウト活動で得られた知識や経験を次世代へと、継承していくことを期待しています。

「理事 稲野吉弘」が各界に幅広く!聞く! 活躍するボーイスカウト経験者 探訪

今回は「遠州鉄道株式会社
代表取締役会長 斉藤薫」氏を
お訪ねしました。

稲野: 先ず自己紹介をお願い致します。

斉藤: 私は、島田市生まれですが、親の関係で生まれてすぐ島根県浜田市に移りました。高校3年生に浜松西高等学校に転校し、東京の大学を卒業して浜松市の地元企業「遠州鉄道」に就職しました。

稲野: ご自身のボーイスカウトとの関わりをご紹介下さい。

斉藤: 浜田市は漁港と商港の町で、海上保安庁の巡視船の基地でもありましたので、海洋少年団がありました。当然、ボーイスカウト団もありましたが、昭和30年代は日本全国の人達が、まだまだ貧しくて、海洋少年団やボーイスカウト団の活動に参加できる家庭は極一部の家庭だけでした。遠州鉄道には、企業内スカウト団として浜松第11団がありました。また、大学時代に浜松で静岡県ボーイスカウトの重鎮(元県連理事)の故市川重雄県会議員の事務所でアルバイトをしたときに、市川議員とよく浜松のボーイスカウトの地区大会を見ておりました。子供の頃に経験できなかったスカウト活動が、「遠州鉄道」で出来るようにスカウト指導者になりました。

稲野: ボーイスカウト活動で思い出深い出来事をご紹介下さい。

斉藤: 第7回日本ジャンボリー(昭和53年御殿場で開催)に奉仕隊で参加したとき、台風が直撃しましたが、日中の活動の疲れもあり、テントの中で組み立てベッドの下で水が流れていても、まあどうにかなると



遠州鉄道(株)代表取締役会長 浜松第11団副団委員長 斉藤薫氏

【斉藤薫氏 略歴】

遠州鉄道株式会社代表取締役会長、浜松商工会議所会頭。遠州鉄道(株)の企業団であるボーイスカウト浜松第11団と育つ。

思い朝まで寝ていたことが強く記憶に残っています(笑)。また遠州鉄道は観光バス会社でもありますので、第11団のキャンプでは、愛知・岐阜・長野・山梨などへ遠出もしました。キャンプでは、キャンプファイヤーの「火の神」を務めることや、父母の食事を作る仕事が多かったです。指導者「講習会」・「実修所」に行き、遠鉄グループの家族や子供達と街頭募金、キャンプ、ハイキングなど楽しいスカウト活動を経験しました。浜松地区合同開催の班長訓練野営も3月の厳しい寒さの中で、スカウトたちと過ごしたことが思い出されます。

稲野: スカウト活動に期待すること、役割についてお答え下さい。

齊藤:スカウト活動は、学校の活動とは違い上級生下級生一緒に活動しますので、年上スカウト・年下スカウトとのコミュニケーションを通して学校とは違う成長を期待します。また、スカウトにいろいろな経験をしてもらいたいと、浜名湖でのヨット訓練、浜名湖一周サイクリングや秋葉ダムでのカヌー体験、白樺湖での雪中キャンプ、スキー訓練など実施しましたが、正直私自身が初めて経験することばかりでした。今思えばスカウト活動のお陰で、通常の会社員では体験できない多くのことを経験出来ました。ボーイスカウト活動に感謝しております。

稲野:齊藤会長は遠州鉄道の会長職以外にも浜松の商工会議所会頭職に就任されておりますが、その際“浜松のモノづくり産業を大切に『起業家のまち』としての支援を継続したい”と語っておられました。ボーイスカウト活動に一企業人として期待されていることがお有りと思いますがいかがでしょうか？

齊藤:そうですね、企業としてはやはりリーダーシップ、マネジメント能力が求められますね。

稲野:私もリーダーシップに通じる“独自の視点”をもち、果敢に挑戦する気質”がボーイス



ボーイスカウト静岡県連盟 理事 浜松東地区委員長 稲野吉弘

カウト活動で身につくことを期待したいと思います。最後に現在活動中のスカウトに伝えたいメッセージをお願いします。

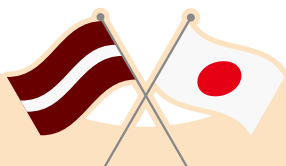
齊藤:スカウトには日々のスカウト活動を一生懸命行うとともに、「いろんな経験をする」「知らない世界・土地を見る」ことで、健康で知識豊かな社会人になることを期待しております。

稲野:本日は有り難うございました。



ラトビア×富士地区 交流 プロジェクト

■期間／8月17日(木)～31日(木)



ラトビアプロジェクト

富士第10団 ビーバースカウト隊副長 小林 穂波

8月24日に行われた富士登山と26日～27日のキャンプ、28日のリーダー集会に参加しました。

富士登山では、富士宮口から宝永山に上り御殿場口へ降りるルートでした。ラトビアスカウトは、登りでは足が砂にとられることもあり辛そうではありましたが、登りきってしまうと明るく体力があるなと感じました。ラトビアでは、週に2回活動があるそうなので活動の多さの差ではないかと感じました。天候は安定せずなかなか景色は望めませんでしたが、大砂走を走り抜けるなど楽しい活動になったのではないかと思います。

キャンプ2日目は山梨方面へ富士五湖などを見に行きましたが、最初に行った白糸の滝では富士山の描かれたTシャツなどを購入しており、実際に登ったことは日本に来た思い出に残ったと思います。富士五湖は、時間的にすべてを回することはできませんでしたが、しかし、本栖湖では千円札とは反対側でしたが、お金の説明とともに写真なども撮れました。

キャンプでは、グルテンアレルギーと乳糖不耐症、豚肉が食べられないといったアレルギー対応に苦労しました。パンや麺だけでなく、普段使っている醤油などもアレルギー対応に変えなければならなかったため、食事の内容を考えるのにも時間を要しました。日本の夏を堪能してもらったかったため、お昼ご飯を流しそうめんにしましたが、米粉のそうめんなどに変更にすることで全員が同じものが食べられるようにしました。食事の時間だけでなく、お互いの国のゲームを教えあうなど、普段なかなか話することがない外国人との交流を参加したスカウトも積極的に話に行くことができていたのよかったです。



④ 富士地区合同訓練



④ 富士登山



④ 白糸の滝見学



④ 美味しかった
④ 流しそうめん体験



～ラトビア派遣隊からのメッセージ～

I would like to say thank you very much for the opportunity to participate in the project The Silver Wolf returns to "Latvia". To say a big thank you to Me. Kawashima to starting this project.
We are very grateful that we had opportunity to get to know Japanese culture, traditions, eating habits, camping and were able to experience, ever a little, the climb of the legendary Mount Fuji. We realized that the values of our cultures and traditions are similar.
I and we all want this project to continue for a long time!
Thank you to all the families who hosted us, you are great.
Also, many thanks to Me. Kurokawa for actively resuming the project after 3 years of silence.

Out best regards
Furmals 3rd. scout and guide unit
30.08.2023

Tveta Elerte
Kristaps Elerts
Lina Silina
Nikola Elizalute Remere

訳:シルバールフが「ラトビア」に帰国するプロジェクトに参加する機会を頂きまして心より感謝を申し上げます。このプロジェクトを立ち上げる機会を与えてくれた川島さんに敬意を評します。私たちは日本の文化、伝統、食の習慣、キャンプ生活そして伝説の富士山への登山、と最高の体験をすることが出来ました。私たちは、異文化の価値観と伝統も似ております。私も私たちもこのプロジェクトが長く続いて欲しいと願っております!

私たちを持てなしてくれた家族全員に感謝致します。貴方たちは最高です。また3年間の沈黙を経てこのプロジェクトを積極的に再開してくれた黒川氏に感謝申し上げます。

よろしくお願い致します

指導者及び3名のスカウト 2023年8月30日

トベタ・エレスト(指導者)、クリスタフス・アラート、リナ・シリナ、ニコラ・エリザルーテ・レメール



④ 富士市長訪問
④ 浴衣姿で



夏の思い出

富士第10団 ボーイ隊 望月 栄来

ラトビア日本友情プロジェクトで、クリスタップス君のホストファミリーとして一緒に過ごすことになりました。会う前はいっぱい喋ろうと思っていましたが、いざ会ってみると緊張して喋れず、悔しかったです。でも魚釣りやゲームをして過ごすうちに言葉はわからないけれど楽しくなってきて、もっと一緒に遊びたいなと思いました。

富士登山、ラフティング、キャンプ、回転寿司など一緒に過ごすことで沢山の思い出が出来ました。

第14回 ボーイスカウト島田地区大会開催!

■日時/9月17日(日) ■場所/県営吉田公園



みんなで繋がった地区大会

島田地区コミSSIONナー 篠ヶ谷 路人

秋晴れの晴天に恵まれた県営吉田公園にて、第14回ボーイスカウト島田地区大会が開催されました。「つなぐ・きずな」をテーマとして、5月より各部門で副コミSSIONナーを中心にプログラムを立案、各隊長と調整してBVS・CSはポイントハイク、BSはキャンプサイト作り、VS・RSは信号塔を作成しました。

近年少人数の隊が多く、なかなか組や班での活動が実施できない状況です。また、ここ数年コロナ禍で活動が制限されBVSからRSまでみんなで集まった活動は行われませんでした。今回地区大会の実施によって、スカウトたちが繋がり「みんなで活動する楽しさ」を体感できたことは貴重な体験だったと思います。久しぶりに見た多くのスカウトたちの笑顔が大会の成功を物語っています。地区総会で熊谷地区委員長は「今年は地区大会、野外工作でシンボルとなる信号塔のような工作物を作り、みんなが集まった楽しい活動にしたい」とおっしゃいました。まさに実現、この体験から新たな繋がりへ!

相良地区 相良第1団 ビーバー隊 山下 跳司

4がつからビーバースカウトに入って、はじめてのしまだ地区大会にさんかして、かい会式で友じょうしやをもらえてうれしかったです。

ベンチャー隊のお兄さんたちが、こっきをあげているすがたが かっこよかったです。 ビーバーたいのあつまりでは、ほかのだんのお友だちとだるまさんがころんだやくつとばし、ロープわたしをして楽しかったです。

中でもくつとばしは、思いっきりとおくへとばしたり、みんなでまわくなってビーバーのマークをねらってくつをとばすことがむしがしかったけど、とっても楽しかったです。 こうえんの冒険では木のえだのやじるしをみつけないがらすんで、じめんにおいたロープをくつをぬいで、めをつぶって歩くことがちょっとこわかったけどおもしろかったです。

ユーホーのクラフトもうまくできて、なんどもとばしてあそびました。 さいごに、あつめたビーバーペイですきなおかしにこうかんできてわくわくしました。

あつかったけど、ちがうだんのお友だちとかつどうできて楽しかったので、またいっしょにかつどうしたいです。

島田地区 金谷第3団 カブ隊 井村 華也

9月17日に島田地区大会がありました。私は他の団の男子2人と5人グループでした。初めて会う友達と一緒に行動するのは緊張したけど、組長になったので、頑張ろうと思いました。最初のポイントを見つけるために相談をしたら、お互いにみんなで意見を出し合えたので緊張はなくなりました。最終ポイントに着いた時には昼食時間を過ぎていたけど、途中おなかの鳴ったことも忘れて、クリアしたことに喜びました。

その後ボーイスカウトが組み立てたテーブルや棚を見に行きました。一番すごいなあとと思ったのは信号塔です。もやい結びが来たら登ってもいいと言われたけど、高すぎて怖くなって挑戦するのはやめました。次回機会があったらやってみようと思います。

私は5年生なので、来年はボーイスカウトになります。地区大会で見た信号塔や棚を作れるようになりたいと思います。そのためにこれからも頑張って活動します。



ロープワークに挑戦!



だるまさんが転んだ!



立ち釜戸製作中!

島田地区 島田第2団 ベンチャー隊 西村 康太郎

私はこの大会で人と関わるコツを知りました。信号塔を作る際、初めて一緒に作業をする仲間や小学生のカブスカウトもいました。今までのスカウト活動では関わらなかった仲間に対し、どのようにして心を開いてもらうか、またどのようにすればみんなが楽しく活動できるのか、そんな普段は考えないような事についても考えるきっかけになりました。今回の地区大会はスカウトとして多くの意義がありましたし、たくさんの学びがあったと思います。またこのような大会があれば今回得た人と関わるコツを活かしていきたいです。

島田地区 吉田第2団 ボーイ隊 澤入 亘

今回の地区大会という活動を通して、僕は自分自身の知識不足や力不足を感じました。僕は来年で中学三年生になり班を自ら引っ張っていく班長という立場になります。ですが、自分から率先して行動することが今回の活動ではできませんでした。それは自身の知識不足によるものだと思います。ロープワークなどのスカウトに必要な知識を頭に入れておけばもっと自信を持って行動できたのではないかと思います。今回の経験を生かして周りから頼りにされるようなスカウトになりたいです。



パイオニアリング 立った~!



横須賀の海上自衛隊に行きました

伊豆地区 熱海第11回 カブ隊 森井 茂光

今年の夏休み、ぼくたちは久しぶりのカブ隊キャンプだけでなく、他にもいろいろな楽しいことをしました。

横須賀の海上自衛隊に行って、初めて護衛艦に乗ることができました。ヘリコプターが飛び立つ甲板上、みんなで手旗信号の練習もしました。それから、東京のお台場にある「そなエリア」で防災の体験をしました。地震で町が壊れてしまったとき、どうやって生き抜くかを体験しました。

ボーイスカウトでは、いつもは会わないちがう小学校の友達とも仲良くなれます。それがぼくたちにはすごく楽しいところです。これからも、新しい友達といろいろなことを一緒に楽しんで体験したいです。



夏のキャンプで心にのこったこと

清水地区 清水第17回 カブ隊 林 奈菜世



わたしが、夏のキャンプで心にのこったことは、料理を作って食べたことです。

わたしは、肉じゃがと白米を作るために、火を見守る作業をしました。

火はかまどで起こしました。

大人たちは、豚汁を作ってくれました。

どれもおいしかったです。

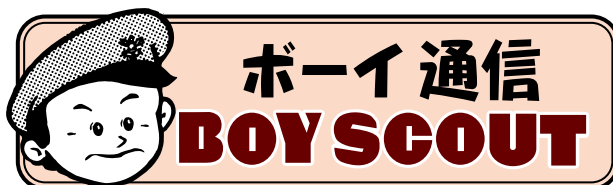
二つ目の心にのこったことは、キャンプファイヤーです。

たい長が教えてくれるおどりを、みんなでやったり、読み聞かせをしてくれる人もいて、楽しかったです。

げきは、あまり上手にできなかったけれど、キャンプファイヤーの火は、きれいでした。

このように、キャンプでは、いろいろなことをします。

次のキャンプは、どんなことをするか、気になります。



阿多古川カヌー川下り

浜松東地区 浜松第6回 ボーイ隊 奥村 陸翔



今日のカヌーは今までと違う点がたくさんありました。

一つ目は、カヌーで移動する距離です。

いつもの二俣川では、50メートルか100メートルほどしかありません。ですが今日の阿多古川では5.5キロメートルの道のりを一方通行で進みました。

二つ目は流れの速さです。僕たちは川の流れにそってカヌーを進めて行ったものの、スピードが前後して、方向のコントロールが上手にできず体力をうばわれてしまいました。

三つ目は川の地形です。いつもの二俣川では深さが背丈ほどしかなく、まっすぐなのですが、阿多古川では違いました。まず、深さは自分の身長2倍くらいの深さから、すね辺りまでしかないところまで様々でした。そして問題は川のかたちでした。もちろんまっすぐな流れのところもあれば、カーブしているところも度々ありました。僕が一番苦戦したのは水がとても浅くカーブがかかっていながらも流れが急なところでした。僕はそのようなところで2回川底の石などに引っかかり先に進めなくなり、水がすごく激しく流れてきたのでカヌーの中に水が入ってきてしまい、上手く操作できなくなってしまいました。そのようなところではカヌーから降りて、歩いて進んだりしました。



この川でゴールまでたどり着く事ができて自信がついたので、他の少しレベルの高い川にも挑戦してみたいです。

阿多古川カヌー川下り

浜松東地区 浜松第6団 ボーイ隊 齋藤 誠



僕は、7月8日に阿多古川でカヌーをしました。一年ぶりで、ボーイで初めてのカヌーだったのに目的地に行く時に雨が降っていたので「カヌーはできるかな、川は氾濫しないかな」と思いながら目的地に向かいました。

集合場所に到着して少し小雨が降ってるなか川を見たら、川は濁ってなく流れも速くなかったけど、集合場所につく十分前くらいに強い雨が降っていたので「あんなに雨が降ってたのにカヌーできるんだ」と思いました。

カヌーに乗った時に、意外とカヌーが思い通りに動かなく流れに流されたり、回転したりして、とてもびっくりしました。一年ぶりなのに、こんなに長い距離本当にカヌーでスタートからゴールまで行けるかなと、スタートした時思いました。スタートしてすぐにカーブがあり、慎重に慎重にと曲がりました。曲がりきったらしばらく真っ直ぐだったけれど回転したりしてしまい、何で回転してしまうのだろうと思いながらカヌーをこぎました。どの曲がり角かまでは覚えてないけど、曲がり角の中には、流れが強かったり狭かったり木が曲る場所に垂れてたりと、通りにくい曲がり角もあったりと、転覆しそうになりながら曲がっていたりしました。カヌーも最後のほうになってくると疲れるし水を抜かなくちゃいけないしと、いつもの二俣川じゃないこともあり、距離が長いからもあるだろうけれど、川が違うだけで全然違うなと思いました。

また違う川でカヌーをやる機会があると言っていたのでその時は今回やったカヌーよりも、スムーズに漕げるといいなと思いました。

指導者だより

久しぶりのビーバー隊隊長・その思い

沼津地区 沼津第4団 ビーバー隊隊長 井口 英敏

本当に久しぶりにビーバー隊隊長を仰せつかって、ほぼ半年が過ぎました。3月時点ではビックビーバー1名、ビーバー2名のスカウト3名構成の隊でした。私はオールドスカウトなので、お引き受けするにあたって「若い指導者を捜す」

ということを目指しました。その目標は何とか達成できました。私の仕事仲間の40代男子が2名講習会に参加してくれ、大学進学?の為ベンチャースカウトで退団した19歳の女の子が再登録。あと1名も賛同して登録出来ました。

私の前任のビーバー隊隊長は女性指導者でしたが、家庭の事情で退団されました。スカウト、保護者にとって、隊長が代わることは大変な事だろうと思います。今までの副長や新人副長などと話し合いながら、月一回程度の隊集会を行なっています。

先日の日曜日は、カブ隊と活動場所は同じ長泉町「水と緑の杜公園」で隊集会を行いました。暗夜行路・観察・採集・パノラマスケッチ等を行いました。2人のスカウトに弟も参加してくれました。新副長が中心にリードしてくれた虫採集で盛り上がっていました。

7月の隊集会は、保護者の要望もあり、清水町の柿田川公園で大切な「水」と「自然」を知ろうがテーマです。今回はお父さんの参加です。この暑い時期なので涼しい水辺は快適でしたが、集中してしまい予定していたカードゲームなど全てを回ることが出来なかったことは残念でした。

思い返せば、小6でボーイスカウトに入り、ローバーでカブ隊を手伝い、22歳でカブ隊隊長にさせてもらいました。その頃は、今とは逆に保護者からみたら「頼りない若者」と見られ、何とか先輩たちフォローのお陰で務められたのだと思います。

指導者は、スカウトと一緒に遊べて、保護者と共通の話題を持てるのが大事です。若い指導者には早くそんな指導者になって欲しいと願います。



宝物

浜松地区 浜松第19団 ローバー隊隊長 荒川 将史

私がスカウト活動に参加したのはカブスカウト(小学校3年生)からでした。そして指導者として現在までスカウト活動に参加しています。

この活動でいくつか得られたものがあります。そのうちの1つは人との出会いです。スカウト時代には当時の指導者、先輩、同級生、後輩、途中から新しく入って来る者。指導者になってからは所属地区の各部門の指導者、各種研修等で幅の広い年代の方々と知り合うことができました。これらの出会いはとても刺激的だった事を思い出します。

歳を重ねることにこれらの出会いは私の人生での宝物だと気づきました。そしてビーバー隊から入団した2人の息子も8年前23WSJに参加し多くの出会いを経験しました。

出会いは刺激的で人生を豊かにしてくれます。

誰にでも出来るよ。そんなに難しい事ではないんだよ。今からでも遅くない。まずはちょっとの勇気で「友達100人できるかな?」やってみよう。



各章に向かって、がんばろう!!

受章者を紹介致します!

ボーイスカウトの進歩制度とは、スカウトの成長の目標となる課目を設定し、進級というステップで、スカウトが発達段階に応じて成長できるようにした制度です。ボーイスカウト隊に入隊するとまず初級スカウト章を取得して段階的に進級を進めます。

●1級スカウト章は高度なスカウト技能や、宿泊を伴うプロジェクト運営、地域への貢献や後輩への指導ができます。

地区名	団名	隊	氏名	進級年月日
清水地区	興津第1団	ベンチャー隊	古牧隼人	2022年9月3日
浜松地区	浜松第12団	ボーイ隊	高橋壮介	2023年7月19日
浜松地区	浜松第12団	ボーイ隊	齋藤汐零	2023年7月19日

●菊スカウト章は高度なスカウト技能の他、ボーイスカウト隊の中の活動で、ボランティア活動や野外活動での更なるスキルが認められたスカウトです。

地区名	団名	隊	氏名	進級年月日	地区名	団名	隊	氏名	進級年月日
浜松東	浜松第22団	ボーイ隊	松野友城	2023年4月22日	志太	藤枝第7団	ベンチャー隊	鈴木喜生	2023年6月27日
富士	富士第2団	ボーイ隊	川島こころ	2023年5月20日	志太	藤枝第7団	ベンチャー隊	大須賀泰	2023年6月27日
静岡	静岡第14団	ボーイ隊	徳澄小春	2023年6月17日	志太	藤枝第7団	ベンチャー隊	海老名翼	2023年6月27日
伊豆	三島第5団	ベンチャー隊	庄田拓朗	2023年6月17日	伊豆	三島第5団	ボーイ隊	片山碧	2023年7月20日
浜松	浜松第19団	ベンチャー隊	山路涼夏	2023年6月24日	浜松東	浜松第24団	ベンチャー隊	磯辺咲来	2023年8月29日
志太	藤枝第7団	ベンチャー隊	待井直哉	2023年6月27日	浜松東	浜松第6団	ベンチャー隊	鈴木晶大	2023年8月19日
志太	藤枝第7団	ベンチャー隊	八木佐和	2023年6月27日					

●隼スカウト章はスカウト技能を十分に役立てることができ、ジュニアリーダーとしての基本的な隊運営の知識を有し、健全な体と精神を身につけたスカウトです。

地区名	団名	隊	氏名	進級年月日
浜松東地区	浜松第30団	ベンチャー隊	山本光司朗	2023年6月7日
浜松東地区	浜松第30団	ベンチャー隊	土屋斗和	2023年6月7日
伊豆地区	三島第5団	ベンチャー隊	酒井七華	2023年6月17日



おめでとう!! 26名の仲間が友情章を授与されました。

「友情章」は、君の友達に「スカウトになろうよ!」と言って、友達がスカウトに入るともらえる章です。記念品はネームプレートがもらえるよ。次は君が友達を紹介して「友情章」をゲットしよう!

令和5年10月度「友情章」顕彰者名簿

組織拡充・広報委員会

氏名	地区	所属	氏名	地区	所属
杉村博樹	伊豆	伊東第5団 C S隊	大久保大雅	志太	藤枝第2団 BVS隊
道本朔太郎	伊豆	伊東第5団 C S隊	山岸凜羽	志太	藤枝第2団 BVS隊
勝呂麟太郎	富士宮	富士宮第5団 BVS隊	林快周	島田	金谷第1団 C S隊
富岡勇登	富士宮	富士宮第22団 C S隊	二ノ宮結翔	島田	金谷第1団 C S隊
土井颯也	富士宮	富士宮第22団 C S隊	山下芽那	島田	相良第1団 B S隊
足立楓歩	富士宮	富士宮第22団 B S隊	山下跳司	島田	相良第1団 BVS隊
望月誠仁	清水	清水第17団 BVS隊	増田湊太	島田	相良第1団 B S隊
小長谷京	静岡	静岡第27団 C S隊	立石堅太郎	浜松東	浜松第15団 B S隊
青木良真乃	静岡	静岡第27団 C S隊	袴田羽留乃	浜松東	浜松第15団 C S隊
潮田悠矢	志太	藤枝第2団 C S隊	早川薫	浜松東	浜松第15団 C S隊
矢野暁	志太	藤枝第2団 BVS隊	野中遥真	浜松東	浜松第15団 C S隊
山本桔平	志太	藤枝第2団 C S隊	小山丈太郎	浜松東	浜松第15団 C S隊
大畑香晴	志太	藤枝第2団 BVS隊	袴田那津郎	浜松東	浜松第15団 C S隊



マスコミコーナー

マスコミ(新聞・雑誌)に掲載された“スカウト活動の記事”を紹介します。



令和5年7月11日(火)
 静岡新聞掲載



⬆令和5年6月24日(土)熱海新聞掲載



令和5年7月30日(日)
 静岡新聞掲載



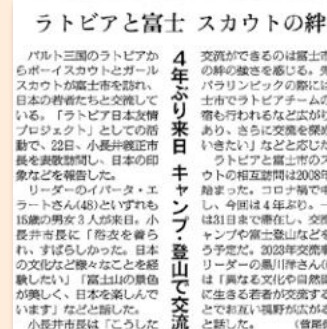
🕒 令和5年
7月19日(水)
伊豆日日新聞
掲載



📅 令和5年9月1日(金)
静岡新聞掲載



令和5年8月25日(金)
 静岡新聞掲載



📅 令和5年8月23日(水)
朝日新聞掲載



令和5年
8月28日(月)
静岡新聞掲載

おしらせコーナー

《 定型訓練 》

ボーイスカウト講習会 静岡第636回 浜松東

- 日 時: 令和5年11月19日(日)
- 場 所: 浜松市立青少年の家
- 申込み: 11月5日(日) まで

ボーイスカウト講習会 静岡第637回 沼駿

- 日 時: 令和6年1月28日(日)
- 場 所: 長泉文化センターベルフォーレ
- 申込み: 令和6年1月14日(日) まで

《 定型外訓練 》

第2回県TT研究集会

- 日 時: 令和5年
11月4日(土)~5日(日)
- 場 所: 国立中央青少年交流の家

県連盟定型外訓練

- 日 時: 令和5年
11月25日(土)~26日(日)
- 場 所: 国立中央青少年交流の家

SFHセミナー〈実践編〉

- 日 時: 令和5年11月18日(土)
- 場 所: 静岡県青少年会館
- 申込み: 11月11日(土) まで
静岡県連盟事務局 必着

令和6年度 定型訓練 所長・主任会同

- 日 時: 令和5年12月10日(日)
- 場 所: 静岡県青少年会館

《 事務局 》

地区事務長会議

- 日 時: 令和5年12月9日(土)
- 場 所: 静岡県青少年会館

令和5年度秋期の緑の募金運動

- 日 時: 令和5年9月1日(金)~10月31日(火)
- 場 所: 地区内各所
- 募金送金期限: 県連事務局宛 11月8日(水)

ボーイスカウトへのお問い合わせ・入隊希望は

ボーイスカウト静岡県連盟事務局 (☎054-255-6185) まで
ホームページもご覧ください。 <http://bs-shizuoka.com>

編集 日記

第25回世界スカウトジャンボリー韓国にご参加のスカウト・指導者の皆さん及びご支援頂いた皆様、本当にお疲れ様でした。様々な実体験を通して沢山の思い出・人との交流が生まれました。各隊団通常の活動もコロナ以前に戻り、この夏は積極的な活動が行われました。また皆様からのご意見・情報及び取材依頼がございましたら県連事務局までお寄せ下さいますようお願い致します。

広報「たちばな」編集部 杉山文朗

広 報 “たちばな” 2023年10月
発 行 所 一般社団法人 日本ボーイスカウト静岡県連盟
〒420-0068 静岡県静岡市葵区田町 1-70-1
県青少年会館内
TEL054-255-6185 FAX054-255-6186
<http://bs-shizuoka.com>
編集責任者 総務・広報委員長 南 條 順子
印 刷 三 富 印 刷 株 式 有 限 公 司
静岡県浜松市東区上新屋町 30-1 TEL053-467-4678
発 行 部 数 2,840部